

ミュージアム連携で全国表彰 ～府内ミュージアムによるデジタルアーカイブ推進事業が受賞～

- 「KYOTO 地域文化をつなぐミュージアムプロジェクト実行委員会（事務局：京都府）」のデジタルアーカイブ推進事業が、内閣府の「デジタルアーカイブジャパン・アワード 2026」※を受賞しましたのでお知らせします。
- 府内では、3件目の受賞となります。

※デジタルアーカイブジャパン・アワード：デジタルアーカイブの拡充や利活用の促進に積極的に取り組む機関や活用者等を顕彰し、その取組を広く社会に紹介することにより、デジタルアーカイブ活用の機運醸成を図ることを目的として、内閣府知的財産戦略推進事務局が2022年に創設した表彰制度。

・2026年度受賞機関一覧：<https://jpsearch.go.jp/daj-award-2026>

・過去の府内での受賞実績：立命館大学アート・リサーチセンター（2022年）、京都大学古地震研究会（2024年、他機関との共同受賞）

1 受賞概要

（1）受賞機関

KYOTO 地域文化をつなぐミュージアムプロジェクト実行委員会

（2）受賞対象

「京都ミュージアム連携による博物館収蔵資料デジタルアーカイブ推進共同事業」
(<https://museumforum.pref.kyoto.lg.jp/column/3031/>)

（3）事業概要（詳細は別紙）

本事業は、地域の小規模ミュージアムが抱える人材や予算等の課題を踏まえ、京都府ミュージアムフォーラム加盟館等が連携して収蔵資料のデジタル化と人材育成に取り組んだものです。

府内11館が参加し、研修、資料撮影・公開等を通じて京都の貴重な地域文化資源を保存・継承するとともにオンライン公開を通じ広く発信しました。

2 受賞理由

京都府ミュージアムフォーラム加盟館等で構成される実行委員会として、多くの小規模ミュージアムが連携しながら資料のデジタル化と人材育成に取り組むとともに、京都府が広域的な調整・事務局機能を担い事業を推進したこと、また、その成果をレポート等として広く共有していることが評価されました。

3 今後の取組

令和8年度も新たに5館が参加し、資料デジタル化及び人材育成を継続して実施しています。

今回の受賞を契機として、府内ミュージアムにおけるデジタルアーカイブの取組拡大と地域文化資源の発信強化を図ります。

<参考：KYOTO 地域文化をつなぐミュージアムプロジェクト実行委員会>

京都府ミュージアムフォーラムの加盟館で構成する実行委員会。事務局は、京都府文化生活部文化政策室が担う。デジタルアーカイブ事業では、「一館でも多く、一点でも多く」を合言葉に資料デジタル化・公開・活用実践に取り組み、11 館 632 点の資料を公開（R7 年度末時点）

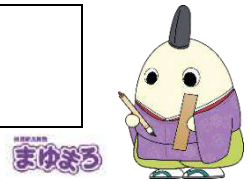
<参考：京都府ミュージアムフォーラムの概要>

ICOM 京都大会の開催を契機に平成 29 年に創設したミュージアムネットワーク。相互連携し、各館の有する課題の解決を図り、地域の活性化等に向けた取組を推進している。京都府内の博物館・美術館等 69 館が加盟。

(<https://museumforum.pref.kyoto.lg.jp/>)

【本報道発表に関するお問合せ】

京都府文化生活部文化政策室 室長 梅原 TEL 075-414-4215



京都ミュージアム連携による博物館収蔵資料 デジタルアーカイブ推進共同事業の取組概要

KYOTO 地域文化をつなぐミュージアムプロジェクト実行委員会

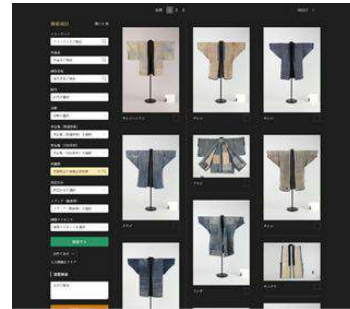
＜博物館資料のデジタル化＞

1 全11館 合計756点の資料を撮影・デジタル化

	施設名	点数
(1)	京都府立丹後郷土資料館	113
(2)	大山崎町歴史資料館	62
(3)	向日市文化資料館	62
(4)	与謝野町立江山文庫	60
(5)	与謝野町立古墳公園はにわ資料館	51
(6)	舞鶴市立赤れんが博物館	75
(7)	舞鶴市郷土資料館	70
(8)	京都府立堂本印象美術館	70
(9)	亀岡市文化資料館	59
(10)	京丹後市立郷土資料館	68
(11)	京丹後市立丹後古代の里資料館	66
	合計	756

2 632点の収蔵資料をオンライン公開

- ・文化遺産オンライン・ジャパンサーチに公開
- ・府内博物館の貴重な資料を「いつでも」「どこでも」オンライン上で見るができるように。



▲京都府立丹後郷土資料館

＜博物館のデジタル人材育成＞

3 実地研修（講師＋各施設職員で実施）

- ・各施設に簡易で多用途に利用できる撮影セットを持ち込み、座学による研修と、撮影実技研修を実施



4 全体研修（参加者計50名（現地27、Web23））

- ・日時：令和8年2月9日10:00～16:20
- ・ミュージアム関係者、市町村文化財担当者を対象に本事業取組発表と講義やワークショップを実施



＜博物館資料・地域文化資源の活用実証：震災資料のデジタル化及び教育活用＞

5 丹後震災資料・遺構の3D化

実施日：令和7年10月2日、10月3日

丹後震災の遺構を3D計測し、デジタル上で再現



6 デジタルデータを活用した小学校での震災教育授業

令和7年12月23日

場所：峰山小学校
(京丹後市)



＜令和8年度の取組＞

宇治市歴史資料館、城陽市歴史民俗資料館、南丹市立文化博物館、日本の鬼の交流博物館、八幡市立松花堂庭園・美術館の5館が参加し、博物館資料のデジタル化・公開に取り組む。